

女性医療人きらめきプロジェクト キックオフに寄せて

九州大学病院および医学部は、平成19年度文部科学省の大学改革推進事業に採択され、今年9月「女性医療人きらめきプロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトは女性医療人(女性医師、女性看護師など)が女性のライフステージに応じて働き続けることができる、魅力ある職場環境を創ることを目指しています。

この活動の中心として学内外に開かれた「女性医療人教育研究実践センター」を設立しました。この取組みの大きな柱として以下のことを行います。

- (1) 女性医療人の実態調査を行い、どのような問題があるかを明らかにします。
- (2) 多くの女性医療人にこのプロジェクトに登録してもらい、ネットワークを構築します。
- (3) 登録者にはネットワークを介して、継続的学習・研修を可能にするe-ラーニングによる教育コンテンツや、情報交換の場を提供します。
- (4) ライフステージに応じた就業や研究を継続できるよう、「女性医療人ステップアップ外来」を設置し、各診療科の非常勤女性医師や看護師の協力を得てワークシェア、フレックス制で運営し、復職へのステップアップとします。
- (5) 医学部医学科、保健学科の学生の皆さんにも、女性がその能力を十分に発揮できるチャンスを得ることの社会的意義を理解し、お互いが交流できる場を設けます。
- (6) このプロジェクトが、男性医療人にとっても働きやすい職場環境を提供することをめざします。

このプロジェクトはまだ、始まったばかりですが、九州大学病院が患者さんだけでなく、働く人々からも満足され愛される病院となる変革の一つとして活動を展開します。

本プロジェクト関係者一同、心を合わせて取り組んでゆく所存ですので、皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。

記念講演

「日本の医療をよくするための女性医療人の役割 —女性医療人がきらめくために—」

古川 貞二郎 (元内閣官房副長官)

10年を待たずして日本の勤務医の半数が女性医師で占められるといわれる現在、医療活動の大きな二つの領域、「医療」と「看護」が女性の力に依存する時代が来ようとしています。新しい時代に向けてより良い医療を築き上げるためには女性医療人が十分な能力を発揮できるような体制や、働きやすい環境を創ってゆくことが医療界をはじめ、広く社会に課せられた大切な課題です。私は、この女性医療人きらめきプロジェクトに大きな夢と期待を寄せています。



●PROFILE

昭和33年九州大学法学部卒。長崎県庁を経て厚生省に入省し、平成5年から事務次官、平成7年2月から平成15年9月まで内閣官房副長官として村山、橋本、小淵、森、小泉の5つの内閣を支える。現在、思い賜財団 母子愛育会理事長。

多くの女性医療人の方々に、本プロジェクトへの登録を募集しています。
女性医療人が手をつなぐことによって、より良い医療環境を創ってゆきましょう。
詳細は下記の女性医療人教育研究実践センター事務局までお尋ね下さい。

問い合わせ先

九州大学病院 女性医療人教育研究実践センター事務局 山下まで
chishaki@shs.kyushu-u.ac.jp